

1年次の美術でAALが行われていました。

私は、2015年から「アクティブ・ラーニング（AL）」について研究をしています。2016年には「AL指数」と「R80」を、2017年には「TO学習」を考案しました。そして、2018年には「AAL」と「日本語の4技能」を提唱し、全国に広めています。

AALとは、「アート・アクティブ・ラーニング」です。この1年間で、本校では数々のAALが誕生しました。並木ドリームでも、3年次家庭（第344号）、3年次理科（第357号）、2年次国語（第397号）のAALを紹介しました。

先日、1年次（中1）美術の大江先生のAALを見学しました。「言葉で伝える」という授業でした。ペアになり、一人は正面に映し出された水墨画（雪舟・伊藤若冲）を見て、その絵を言葉で伝えます。もう一人は、絵を見ずに言葉を頼りにして墨で絵を描いていました。絵を伝える側の生徒は、一生懸命鑑賞して説明していました。その説明を聴いて絵を描く生徒は、イメージ脳（右脳）が活性化していたと思います。そして、何よりみんなとっても楽しそうでした（^ ^）！！

振り返りのワークシートには、次の3点を書くようになっていました。「絵を言葉で伝えて思ったこと、考えたこと」「作品をよく見たことで作品の良さや気づいたこと、また作品の鑑賞について思ったこと、考えたこと」「言葉以外で伝える表現方法の一つに美術があります。美術が生活の中でどのような役割があるか、考えて見よう。」

大江先生は、「絵は魅力的な表現方法です」と力説されていました。「アート・アクティブ・ラーニング」によって「感性」を磨く。とても大切なことだと思います。

